

手をつなぐ親たち

第45号

平成29年3月31日



一般社団法人 山形県手をつなぐ育成会

題字 山野井 整(ワークランドベにばな)
絵 伊藤 晃基(ワークランドベにばな)

編集・発行 ● 〒990-0021 山形市小白川町二丁目3-31 山形県総合社会福祉センター内 TEL(023)623-6572 FAX(023)623-6571
E-mail ● y-ikuseikai@coda.ocn.ne.jp ホームページ ● <http://yamagata-ikuseikai.net/>
ブログ ● <http://yamagatakenikuseikai.blog.fc2.com/> フェイスブック ● 山形県手をつなぐ育成会Facebook 発行責任者 ● 田中 俊久

第2回「家族と支援者が共に学ぶセミナー」開催
「障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり」の取組みについて学ぶ
全国育成会連合会会長 久保厚子氏をお招きして

第1部 行政説明

山形県健康福祉部障がい福祉課課長補佐 大江敏宏氏により、次のテーマで行政説明をお聞きすることができました。



大江敏宏課長補佐

平成28年度「家族と支援者が共に学ぶセミナー」が11月2日(水)、山形市総合福祉センターで開催されました。昨年に引き続き、第2回目となります。本セミナーを開催するにあたって、知的障害者福祉協会、手をつなぐ育成会、重度心身障害児(者)を守る会等の関係者が集まり、実行委員会を組織し、実施までこぎつけることができました。多くの関係者のお力添えと資金提供があつて実施することができたのです。

その結果、障がいのある子を持つ家族及び支援者等が110名参加し、意義あるセミナーになりました。

本セミナーのテーマは、『支え合いながら共に生きる社会をつくるために「障害者差別解消法と県条例が施行されて」です。共生社会の理想をめぐり、いかなる取り組みが関係者にとって必要かを問題提起する内容でした。

内容は3部に分けて実施されました。

する差別解消に関する取り組み状況「山形県障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例の概要」でした。県として、「心のバリアフリー推進員」の養成に力を入れています。これは全国初の試みで、職場内の障がい者に対する配慮の指導を中心に行う人の養成です。現在300名の人たちが推進員となつて活躍していることがわかりました。

第2部 基調講演会

講師として、全国手をつなぐ育成会連合会会長 久保厚子氏をお招きすることができました。演題は、『支え合いながら共に生きる社会をつくるために〜障害者理解と安心な街づくりへ〜』

津久井やまゆり園の障がい者に対する殺傷事件について、詳しく触れられました。そして、こうした問題



久保厚子会長

が生じない取り組みをいかにすべきか問題提起がありました。差別解消法・条例の制定によって、生命の重要性について再確認する必要性を強調されました。関係者一人一人の社会に対するアピールこそ、変革の力になると呼びかけられました。さらに、みんなが「我が事」として、地域づくりに取り組んでこそ、障がい者の安心が得られることを述べられました。

昼食・休憩時には、障がい福祉事業所紹介コーナーを設け、事業所スタンプより、直接説明を聞き、各事業所のパンフレットを取りそろえました。

第3部 シンポジウム

午後からは、『支え合いながら共に生きる社会をつくるために〜本人の思いをいかに引き出し、それをどう活かして行くか〜』のテーマにせまる話し合いを行いました。

- 助言者 全国手をつなぐ育成会連合会会長 久保厚子氏
- コーディネーター 山形県知的障害者福祉協会会長 井上博氏
- シンポジストは次のとおりの方々でした。なお、述べられた内容も簡単に記します。
- 特別支援学校に通う親の立場から 鶴岡養護学校中学部保護者 プレジヨブつるおか代表 長谷川薫氏



左から順に 井上博氏 久保厚子氏 長谷川薫氏 伊豆田公蔵氏 大原良紀氏 鈴木ひとみ氏

長谷川薫氏には、アンジェルマン症候群という難病を抱えた子がいます。その子と共に、地域における社会貢献活動を立ち上げました。それは「ぶれじョブつるおか」の実践です。地域の草取り、ゴミ拾い、コンビニのお手伝い、老人施設の清掃等を行っています。

地域の人々から感謝され、貢献活動に対するやりがいにもつながっています。

- 事業所に通う親の立場から 山形市手をつなぐ育成会会長 伊豆田公蔵氏
- 伊豆田公蔵氏は、点頭てんかんの障がいのある子がいて、男親として、地域に受け入れてもらえるよう、努力しています。
- 地域の人たちが障がいのある人も含め多様性を認めることを願っています。
- 互いを理解し、互いが支え合って生活してこそ地域だという思いを強く持っています。

もちろん、支えられている立場としての感謝の気持ちも忘れてならないという思いもあるとの報告でした。

- 特別支援学校の立場から 米沢養護学校校長 大原良紀氏
- 大原良紀氏は、山形県の特別支援教育について、詳しく語ってくれました。さらに、現在の勤務校である県立米沢養護学校の取り組みについて触れられました。

地域に根ざした学校として、多様な学びの場を提供するため、多様な支援の実現を目ざしているとのこと。そのため、教育、医療、福祉、労働等との連携に努力しているとのことでした。

- 施設・事業所の立場から 山形県総合コローニー希望が丘しらせ寮寮長 鈴木ひとみ氏
 - 鈴木ひとみ氏は、積極的な相談支援事業の活用について述べられました。そして、手間と時間をかけて、障がい者一人一人に対する意思決定支援の重要性も強調されました。
 - 事業所や支援者といった社会資源が活用されれば、されるほど使いやすいものになっていき、障がい者の生活しやすい社会の実現につながるということの報告でした。
- それぞれの立場から、今までの

課題に関する取り組みの貴重な報告がありました。

今後は、障がい者施策予算も増えない時代に突入してゆきます。それぞれの立場からの努力と、その明確な主張が障がい者福祉の発展につながることを認識して、関係者一堂が一丸となって課題解決に取り組むことがまとめとして述べられました。

「共に学ぶセミナー」に関する感想

学ぶことは力となる

昨年10月2日に山形市総合福祉センターを会場にして、2回目の「家族と支援者が共に学ぶセミナー」を、全国手をつなぐ育成会連合会の久保厚子会長さんを講師にお迎えして持つことができました。

7月26日に津久井やまゆり園で悲惨な事件が発生し、久保会長さんが身を挺して、「このような事は決してあってはならない。社会全体で『障害者を世の光』として愛護して行くことが必要」と訴えて下さいました。

研修会と言うと、「専門家のお話を家族が聞く」ということが多いのですが、このセミナーは、講演を聞くと共に、それぞれの立場の家族・

支援者の方々から取り組んでいることの報告とそれらへの質問やシンポジウムなど学ぶセミナーです。皆さんの取り組みのお話を聞くと、自分も今のままではいけないと力と希望が湧いて来ます。「学ぶことは力となる」ということの実感をいたしました。

10年ほど前に、山形美術館で、星野富弘さんの詩画展がありました。沢山の方々が混み合うように参集していました。その展示の中に、次のような詩がありました。

よるこびが集まったよりも
悲しみが集まった方が
しあわせに近いような気がする
強いものが集まったよりも
弱いものが集まった方が
真実に近いような気がする

しあわせが集まったよりも
ふしあわせが集まった方が
愛に近いような気がする

わたしたちのセミナーが、お互いのつながりを深め、本当のよるこびと希望をはぐくみ、強い力を生み出す場となるように祈っています。

助川 暢氏（コロニー希望が丘父兄会連合会会長）より

「この子らを世の光に」する

昨年7月に起きてしまった津久井やまゆり園の事件。障害を持った子の親としてとても大きなショックを受けました。

そんな時に全国手をつなぐ育成会連合会が声明文を発表し代表としてメディアに出演なされていた久保会長。今回のセミナーでは会長の話を聞く事が出来ました。

初めに触れたのは今回の事件でした。育成会で声明文を発表後、大きな反響があった事、その中には悲しい思想を持った方が多数いる事に触れておりました。

また昨年4月に差別解消法、そして山形県では県条例が制定されました。法令や条例に皆が互いを思いやる気持ち・魂を入れることが大切とおっしゃっておりました。

最後に「この子らを世の光に」50年以上前の言葉です。どんなに重い障がいがあっても自己実現という生産活動をしている子ども達の生活によって親や支援者、社会が教えられ、障害福祉の発展という立派な生産活動をしながら子ども達は世の光になっっている事を教えて頂きました。

富樫 幸子氏（鶴岡市手をつなぐ親の会会長）より

「共に学ぶセミナー」のアンケートから

1. 行政説明

4月の県条例が施行され、介護、農林のモデル事業など実際に動いているのを知ることができた。

2. 講演会

久保会長のとでも分かりやすいお話を聞く事ができました。同じ親として思いは同じ、希望も同じ身近に感じられました。中央で国に対して提言をしておられ、勇気をいただきました。私も地方でできることをやっています。

3. シンポジウム

○ 意思決定支援について…意思表示、形成が大切との言葉。大変印象的だった。日常の中で、少しずつ選択する場面を作っていく。けたら…と思う。

○ 鶴岡の長谷川さん、山形の伊豆田さんの体験、親としての率直な思いが伝わり、とても良かったです。地域に理解を広げる活動を私もしていく勇気をいただきました。

ライフステージに合った

地域福祉充実事業開催

赤い羽根共同募金配分事業による

差別解消法と虐待防止研修会

テーマ「差別解消法と虐待防止を考える」差別解消法が施行されました」

●日程 10月21日(金)

●会場 新庄市ゆめりあ

●講師 サポートセンターおきたま相談支援専門員 平間みゆき氏

●参加者 30人



講師 平間みゆき 氏

講師の平間氏が、最初に述べられたことは、障害者の人権擁護の立場から、ピープルファースト（障害者の前に一人の人間である）を前提とする考え方です。

障害者の事について「私たち抜きで私たちのことを決めるな」ということが、主張されるようになってきています。

国連の障害者の権利条約制定過程に障害当事者も参画することができたのは画期的でした。日本においては、「障害者基本法」（平成23年公布）、障害者虐待防止法（平成24年施行）が制定されました。

虐待は著しい人権侵害と規定されたのです。虐待防止のためには、通報義務が課されるようになりました。

さらに、平成28年には、「障害者差別解消法」、「山形県障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例」が施行されました。

社会的障壁を取り除いて、障害者

の社会参加を推進するための法律です。

社会の物理的バリア・制度的バリア、情報のバリア、心理的なバリアに関して、個々に応じた合理的配慮が求められているのです。

100人いれば、100とおりの配慮が必要となります。

こうしたことが確実に浸透するには、地域の中で、当事者が主体になって広めていくことです。

これこそ、共に生きる社会の仕組みづくりです。誰もが暮らしやすい社会の実現のために、知恵を出し合うことが大切なのです。

講師の平間氏自ら障がい当事者として、積極的に啓発活動を行っていることに、敬服するばかりです。

家族支援の研修会

●テーマ「家族にも支援が必要です」ライフプランづくりのススメ」

●日程 11月10日(木)

●会場 酒田市浜田学区コミュニティ防災センター
●ファシリテーター 古澤薫・横山嘉彦・中川奈美

●参加者 20人



ライフプランシートを作成中

本研修会は、グループに分かれて、お互いの考えや体験をやりとりし合って、より良いライフプランを考えようとするものです。

ワークショップと称する体験型の研修を通じて、障がいのある子の支援だけでなく、家族のことも振り返ってみようとするものです。親の事、きょうだいの事をもっと理解する事でより良い家族関係づくりをしようとするのをねらっているのです。それぞれ別々の大事な人格だという理解を図る必要があります。家族みんなを大事にするための具体的な計画を見出すための研修として位置づけるものです。家族それぞれが生きがいのある生き方をめざすことがねらいです。

まず、ライフビジョンの点検から始まりです。家族間の良い関係のためには、どんなサービスや支援が必要かの見通しを立てます。

「地域生活支援システム」が見通せるシートづくりを行いました。そして、「ライフプランシート」を作成するのです。家族の将来を見通せるようにします。

第1日目 11月16日(水)

- 東根市「東紅苑」で「障がい者福祉施策に関する理解を深める」をテーマに
 ①講演 ②ビデオ視聴 ③ワークショップ の3部構成で開催

平成28年度山形市知的障がい者相談員・支部会長合同研修会

講演「山形県の障がい福祉施策について」

講師 大江敏宏氏（県健康福祉部障がい福祉課課長補佐）

まず、「障がい者の現状」を述べられ、療育手帳交付者は県内で8074名（平26年現在）おり、毎年増加していると紹介がありました。精神障害者保健福祉手帳交付者も増加しておりますが、身障者手帳交付者は逆に減少しています。

次に、平成28年度障がい者施策推進の5つの基本方針が示されました。第1番目の基本方針は、「障がいを理由とする差別的解消の推進」です。その次には、「障害者差別解消について」ということで、共生社会の実現にとって、社会的障壁と合理的



大江敏宏氏の講演「県障がい福祉施策」

配慮の理解の必要性を述べられました。それに関連して、「山形県障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例」の概要の紹介でした。

さらに、「障がいのある人もない人も共生する社会づくり推進事業」について紹介がありました。差別をなくすための普及啓発、障がい者就

労支援、障がい者スポーツの普及振興、障がい者芸術活動の推進といった内容です。

「障害保健福祉施策の動向」ビデオ視聴により、厚労省障害福祉課長の講演

障害福祉施策の歴史ということ、措置制度から支援費制度への変遷についてふれられました。

障害福祉サービス等予算は、この10年で2倍以上増加しています。1兆1560億円の額になっています。かつての「障害者自立支援法」から「障害者総合支援法」と改正し、その概要を述べられました。難病に関する対象疾病の見直し、重度訪問介護の見直し、強度行動障害の明確化、グループホームへの一元化などの紹介がなされました。



参加者自己紹介

参加者は、最初自分の事を話すのに抵抗があります。時間が経ち少しずつうちとけて、家族のことを話し出し和気あいあいとなりました。そして、他の人の話がきっかけになって今まで気づかなかったことにも、どのような解決があるかのヒントを見出す場面に出くわすことができ、ちよつと気分が落ち着きました。ある種の共感を得ることができました。本研修会の意義を感じる人が多かった内容にする事が出来ました。



知的障がいて、どんな困難があるか、まずは体験。

ああ、なるほどこんなことで混乱していたんだ。無理なかわりをしてきたことを体験することができた。

大人たちの勝手なかわり方が子ども達の生活に大なる迷惑だったということに気付かされました。

というても、深刻な研修ではありません。みんな楽しんで、自分たちの子ども様子の様子に関する誤解を理解しようというのです。

そのもくろみとしては、障がいのある子の関係者よりも、一般の人たちに対する理解啓発を推進しようという意図です。そのための機会を今後作っていくべく模索段階です。ぜひ、皆さまよりその推進に向けてのご協力をお願いします。

そこで、紹介するのが啓発隊メンバーからのメッセージです。

初陣飾った「花笠ほーぷ隊」メンバーからのメッセージ

長谷川 薫

「とおちゃん、鶴のおりがだしやねのが……」あまーい若い奥さん役の隊員に嬉しそくに照れている、旦那さん役の方。会場は一気にアットホームな雰囲気につつまれ、相談員研修の参加者からは、「あっはっはー」の笑いも出ていました。



11月7日、私たち「花笠ほーぷ隊」の初陣でした。隊の結成からわずか4か月のことです。平成28年7月8日、「知的障がい疑似体験・理解啓発セミナー」兵庫県たつの市よりお迎えした「びーす&ピース」さんの講義を受けてから、関西独特のお笑いの世界観とおもしろさに、山形県でもやりたいという有志で結成しました。デビューの日まで、隊の名前

を決め、役割、内容を内陸と庄内で開催のやり取り、練習は3回だけ、肝っ玉母ちゃんたちの子どものために「やるしかない！」という気持ちだけで臨みました。当日は、頭は真っ白、心臓バクバク、冷や汗たらたら、何とか大きな失敗もなく終えました。終了後、地区の育成会会長さんから、「よかったー」の声、満足してもらえたという実感も得ることができました。隊員ひとり一人、反省と課題を感じるところもあつたと思いますが、これを土台とし、よりわかりやすく、より楽しく伝えられたらと思います。子どもたち、障がいのある方があたりまえに暮らしていくことのできる地域社会になってほしいと願い、花笠ほーぷ隊、県内外へ発進（発信）して参ります。

以上、知的障がい者相談員等研修会は、1日目の参加が37人、2日目の参加が19人でした。なお、宿泊者が6人と例年に比べても少ない状況でした。情報交換会も6人の参加でした。年1回の宿泊による会員等交流の場です。互いの親交を深め、胸襟を開いてのお付き合いも大切です。日程を調整して宿泊も考慮していただくようお願いしています。

第2日目11月17日(木)

講演「知的障がい者の疑似体験をしてみよう」

講師 知的障がい者理解啓発隊

(花笠ほーぷ隊)

古澤薫氏・伊藤洋子氏・

長谷川薫氏・山口由美子氏

さらに、地域移行の推進に関することの目標が提示されました。障害福祉サービスの報酬改定に関する検討の進行状況の報告がありました。就労支援において、工賃向上計画のあり方にもふれられました。

山形市手をつなぐ育成会 成人を祝う会

3人が祝福を受ける

1月9日(月)成人の日において、山形市手をつなぐ育成会では、「成人を祝う会」が山形国際ホテルを会場に行われました。

今年、岩澤伸吾さん、瀬尾彩斗さん、菅原幹紀さんの3人が成人です。これからの健康とより良い生活をめざして新たな出発を期したいものです。

以下に、お母さん一人一人からのメッセージを掲載いたします。

ハタチに感謝

岩澤 伸吾さんへ
母より

1月9日、育成会主催の成人を祝う会に出席しました。初めは緊張していた本人も、温かく祝ってくださる会員の方々のお陰で徐々に雰囲気にも慣れ、カラオケまで楽しむ事ができました。良い思い出となりました。ありがとうございます。

育成会に入会してまだ3年ですが、行事に参加して会員との交流は、本人は勿論、親にも意義のある貴重な時間だと思います。来年度は、手

をつなぐサロンに参加したいと思えます。

さて、ハタチを迎えた息子ですが、今日まで沢山の支援をいただき感謝に堪えません。成長とともに変わる体と心の悩み、それと向き合



岩澤伸吾さん 金びょうぶを背に

ながら過ごした年月でした。

これからも、「ありがとう」の気持ちをお忘れずに健康を一番に一人の人間としてさらに成長してほしいと思います。

仲間といることが大好き

瀬尾 彩斗さんへ
母より

山形市育成会成人を祝う会でお祝いしていただきありがとうございます。山形市成人祝賀式にも出席す

ることが出来ました。

初めての事が苦手でも、仲間と一緒に居る事が大好きな息子ですので、同窓の友人と二人で着席。式典の後まで、○×クイズに答え、他の皆さんと一緒にの空間を楽しんでいました。後方で離れて見守る母は、ドキドキでした。参加した事で成人という意識も高まったように思います。

幼稚園の頃、漫画の中で、「将来



瀬尾彩斗さん 金びょうぶを背に

の夢・働く大人になる」の一節があり、自分の事と重ねて思っています。現在、夢工房に毎日通い、楽しく仕事に取り組み事が出来ています。まだまだ成長過程の事も在りますが、夢に向かって成長してくれた事嬉しく思います。

スペシャルオリンピックスデ、陸上・スケートを楽しみ、沢山の出会いもありました。これからも、息子的な楽しみある生活が出来るようにと思っております。

ぜんちの こども傷害保険

個人賠償 弁護士費用 ケガ入院・通院

- ◎ 個人賠償責任補償
- ◎ 権利擁護費用補償 (弁護士費用)
- ◎ ケガでの入通院保障



特別支援学級に通う児童・生徒のために開発された、障がい児のための専用保険です。知的障がいや発達障がいのある子どもたちを、事故や虐待被害などからお守りし、安心した学校生活を送っていただけます。

詳しい資料のご用命は、下記代理店にお問い合わせいたします。

◎取扱代理店

株式会社エフシーバンク

TEL 022-348-4481

〒981-3213 宮城県仙台市泉区南中山3-11-18

○引受保険会社

ぜんち共済株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3丁目5番8号岩本町シティプラザビル5階

いつだって前向き

菅原 幹紀さんへ

母より

幹紀は我が家の末っ子です。これまで多くの皆さんに支えて貰い成人式を迎えることが出来ました。山形市の成人式より一足お先の10月2日、ゆきわり養護学校の同級生と一緒に山形病院で大勢の皆さんの祝福を受け盛大なお祝い会も開いて貰いました。

幹紀が生まれたのは20年前の8月。あれから色々なことがありました。子供は誰しも多くの人の支え無しでは大きくなれませんが幹紀は皆の何倍も助けて貰わなければ命を繋ぐことさえ出来ませんでした。でも家族は幹紀がいてくれたお蔭で素敵な方々と知り合うことが出来ました。幹紀、本当に有難う。

幹紀はいつだって前向きです。とにかく人が大好きで疑うこともいじ



菅原幹紀さん 風船とともに

けることも知りません。幹紀の世話を焼いているつもりが親のほうが何度も助けられていました。幹紀の成長はゆっくりですがいつの間にか親を支える存在です。支えて下さる皆様、有難うございます。これからも宜しくお願い致します。

平成29年度 主な行事

- 第29回山形県知的しょうがい者福祉大会 9月10日(日) 尾花沢市・尾花沢文化体育館
- 第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 9月23日(土)～24日(日) 北海道札幌市「ロイトン札幌」1かである2・7
- 平成29年度山形県知的障がい者スポーツ大会 10月4日(水) 天童市・山形県運動公園サブブランド
- 第57回手をつなぐ育成会東北ブロック大会 10月21日(土)～22日(日) 郡山市磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」
- 第17回全国障害者スポーツ大会 10月28日(土)～30日(月) 愛媛県松山市「愛媛県総合運動公園陸上競技場」

全国手をつなぐ育成会連合会交流誌「手をつなぐ」購入費改定のお知らせ(平成29年度以降)

◆年間購入費

● 県育成会を通しての購入の場合380円→390円

● 全国手をつなぐ育成会連合会への直接申込4千円→4100円

◆ いずれの場合も100円の値上げになりましたが、今後とも継続したご購読よろしくお願ひします。

◆ なお、新規購読も山形県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

編集後記

2月7日息子の誕生ケーキを買いに行きながら38歳になった息子の事を思う。特に小さい頃は大変でした。今でも違う大変さはあるが……。昔は今みたくない支援はあまりなく、仲間といっしょに頑張った。育成会に入ったのもそんな思いからでした。いろんな支援はありますが、大人の障がい者が安心して暮らしていける社会になっているでしょうか。何か、かゆいところに手が届かず、周辺部をかかれていると感じるのは私だけでしょうか。

知的障害児者・自閉症児者のための病氣やケガの総合補償制度

生活サポート総合補償制度

※お申し込み・お問い合わせは・・・

山形県知的障害児者生活サポート協会
推進担当



AIU損害保険(株)代理店(株)ジェイアイシー 南東北支店

〒980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン18F

TEL:0120-294-747 FAX:022-264-0081

ホームページ: <http://www.jicgroup.co.jp>

◇編集委員【押切イツ子・武田満・山口由美子 事務局=黒木仁・古澤薫・八鍬三郎】